

# 巨大 LNG プロジェクトと CSR の推進

## —地域事情、プロジェクト特性に根ざした取り組み



オーストラリア・ダーウィンのプラント建設予定地

石油開発事業は、その事業特性から操業地域の環境や地域社会に一定の負荷を与えてしまうため、以前より HSE (Health, Safety, Environment) 活動を中心に、こうした負荷をできるだけ低減するよう積極的に取り組んできた。一方、最近の世の中の流れとして、持続可能な社会構築に向け、世界規模での社会的課題の解決に企業がどのように貢献するのかも大きく問われるようになった。

### 中長期ビジョンに掲げる CSR 経営

当社は 2012 年 5 月に 20 年代前半の達成を見据えた「INPEX 中長期ビジョン」\* を発表した。このビジョンは 3 つの成長目標とこれを達成するための 3 つの基盤整備で構成されている (\* = <http://www.inpex.co.jp/company/vision.html> 参照)。原油換算で日量約 40 万バレルの生産量を誇る当社は、日本では業界 No.1 だが、世界に出るとまだまだ目立つ存在ではない。エネルギー問題は日本における重要な政策課題であり、その課題に当社が貢献するためには、それなりの会社規模があり世界の企業や産油国から信頼される会社になる必要がある。

このビジョンでは、20 年代前半に日量 100 万バレルの生産量を達成し国際的競争力を有する上流専門企業のトップクラスとなる成長目標を設定しているが、これを実現するための基盤整備の 1 つに「グローバル企業としての責任ある経営」を掲げている。ビジョン推進の初年度となる 12 年度には、早速、社長を委員長とする CSR 委員会を設置するなど全社的な推進体制を整えたほか、

国際石油開発帝石(株) 経営企画本部  
経営企画ユニット 調査・CSR グループ  
マネージャー 山本 剛

当社グループの CSR の取り組み方向性を示すべく、5 つの重点テーマとして①コンプライアンス (人権配慮含む)、② HSE 活動、③社会貢献、④温室効果ガス対応、⑤人材育成、を定めた。

当社グループの従業員数は 08 年の当社発足時の約 1800 人から、現在は約 2500 人となっており、今後海外を中心にさらに増強していく計画である。当社は日本企業では初めてオペレーターとして主導する大型 LNG 開発プロジェクトを進めるために、人材の確保、育成が必要となる。その人材は日本だけでなく、オーストラリア、インドネシアを含む世界から集め、グローバル人材として育成せねばならない。そのためにも当社グループの CSR における方向性を定めて発信、推進していく必要がある。

### イクシス LNG プロジェクトと地域特有の課題

最近では、比較的簡単に取得できる新規の油・ガス田は無くなり、大水深の海域や北極圏など技術的にも厳しい環境での開発案件も珍しくない。また、資源ナショナリズムの高揚も顕著となり、それぞれの地域で求められる新たな課題に適切に対処する必要がある。そのため、地域に根差した CSR の推進が事業の安定的な推進にとって不可欠となっており、グループ全体での共通の CSR 課題に加えて、プロジェクト単位でも固有の課題を設定して取り組んでいる。

現在当社は 2 つの LNG 開発プロジェクトをオペレーターとして推進しているが、オーストラリアで進めるイクシス LNG プロジェクトは、総額 340 億米ドルを投じて年間 840 万トンの LNG、年間

160万トンのLPG、日量10万バレル(ピーク時)のコンデンセートを生産する施設を建設する大型LNGプロジェクトである。このプロジェクトを進めるにあたっては、オーストラリア、特に操業地域である北部準州の社会的課題の解決に貢献し、さらに経済的発展にも寄与することを理解していただくために、地元政府関係者をはじめとする様々なステークホルダーと協議を実施している。

北部準州では人口の40%を先住民が占めており、当社がLNGプラントを建設する地元ダーウィン市周辺の先住民、ララキア族においては失業率の改善が喫緊の課題となっていた。このため、先住民青年層の教育や就業支援を目的に、10年には「ララキア職業訓練校」の建設費用として300万豪ドルを寄付。12年には石油・ガス産業に関する職業訓練、高等教育および研究開発を行う場としてダーウィン市にあるチャールズ・ダーウィン大学が開設する「オーストラリア北部石油・天然ガス研究センター」の開設費用として300万豪ドルを寄付した。

ララキア職業訓練校では、運営開始以来、建設、機械、電子技術などの様々な分野で、これまでに450名以上が訓練を受けており、60名を超える方々が何らかのかたちでイクシスプロジェクトに従事するなど大きく貢献している。

13年に、当社は「先住民社会との協調活動計画(RAP: Reconciliation Action Plan)を策定。ララキア族と覚書を交わし、Relationships(先住民との関係融和)、Respect(地域文化の尊重)、Opportunities(雇用機会などの提供)の3つの分野を中心に、相互に協力し尊重していく関係を約束した。環境面での配慮では、ダーウィン湾での浚

渫(しゅんせつ)作業において地元の方々との協議を重ねた結果、爆薬を使用しない最新の工法を採用するなど、豊かな自然環境に最大限配慮した取り組みを実施している。

このように地域社会とwin-winの関係構築を推進することで、地元住民へのアンケートでも、85%の方がイクシスLNGプロジェクトを歓迎しているという結果を得ている。

## 関係者全員で共有するCSR意識

これだけの大型案件になると、安全操作を含むHSEの取り組みがCSRの観点からも非常に重要となる。INPEXグループのCSRの精神、価値観を当社グループ社員のみならず、コントラクターなどの工事関係者を含む関係者全員で共有する必要がある。取り組みの一例だが、このプロジェクトに関わる全てのコントラクター、サブコントラクターのCEOに現地に集合してもらい、「HSE CEOフォーラム」を開催した。これはまさに現地でHSEに関する意識を共有し、全員が共同でHSEの取り組みを推進することを確認していくもので、今後毎年1回の頻度で開催していく予定である。

また、プロジェクトを推進する現地事務所では、従業員向けにマニュアルを作って配布し、日本の良い仕事文化である「安全第一」「根回し」などの意識共有を進めている。従業員やコントラクター合わせて1150名に対して最近実施したINPEXに対する意識調査の結果では、安全管理やダイバーシティ、社会的責任、人を大切にする文化といった項目の評価が高く、このことは高いCSR意識のもとでプロジェクトが進められている表れと評価している。さらに、こういった取り組みに関する情報を全社で共有し一体感を醸成させるため、社内でCSRセミナーを開催したところ277人が参加するなど、手応えをつかんでいる。

こうした社内外への積極的な働きかけも我々CSR部隊の重要な役割であると考えている。 ■



◆国際石油開発帝石(株)のCSRへの取り組み  
<http://www.inpex.co.jp/csr/>